

# 冬によく使う用語 (その2)

## 1 はじめに

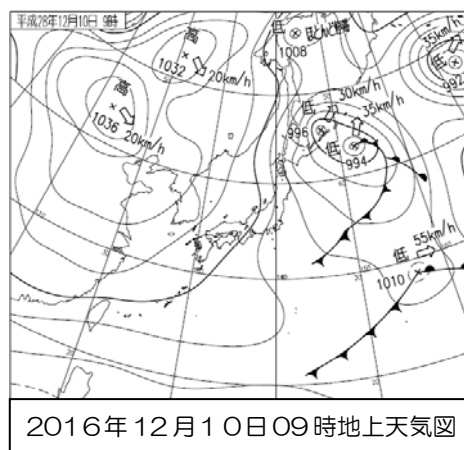
今号の話題は前号の続編「冬によく使う用語 (その2)」です。日頃の気象情報でお馴染みの用語について紹介します。

## 2 よく使う用語

### “天気予報等で耳にする用語”

#### 【冬型の気圧配置】

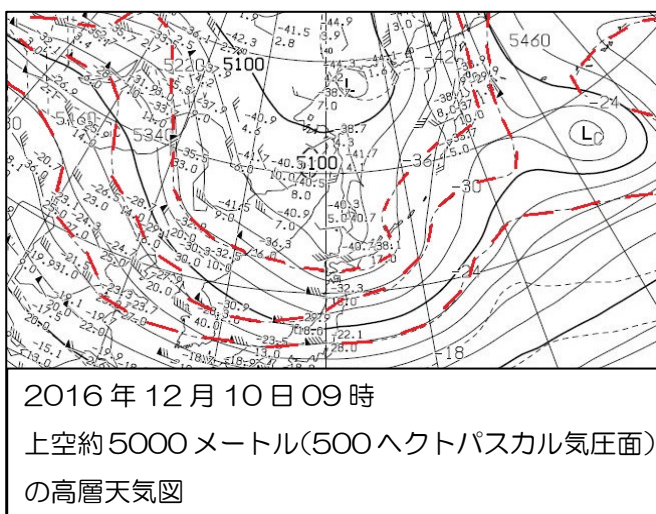
冬期に現れやすい気圧配置で、大陸に高気圧、日本の東海上から千島列島方面に低気圧がある気圧配置を西高東低、いわゆる「冬型の気圧配置」と呼びます。等圧線の間隔が狭いときは季節風が強く吹き、風は気圧の高い大陸側から気圧の低い低気圧に向かって吹きます。



#### 【寒気】

周りの空気と比べて低温な空気を「寒気 (かんき)」といいます。冬は、主に上空約5000メートルの気温が大雪の目安とされることが多く、上空約1500メートルの気温は、雪か雨の判断の目安とされています。

上空の大気の状態を知るための観測は「高層気象観測」と呼ばれており、気温や湿度、風向風速などを世界各地で09時と21時の同時刻に観測しています。青森県に近い気象庁の観測点は、お隣の秋田県にある秋田地方気象台です。観測結果は天気予報の基礎である数値予報モデル※などに利用されています。



※大気や海洋の状態の変化を物理学の方程式に従って計算する手順を定めたもの。具体的には計算のプログラムのこと。

秋田上空約5000mの気温の平年値※は下の表とおおりです。

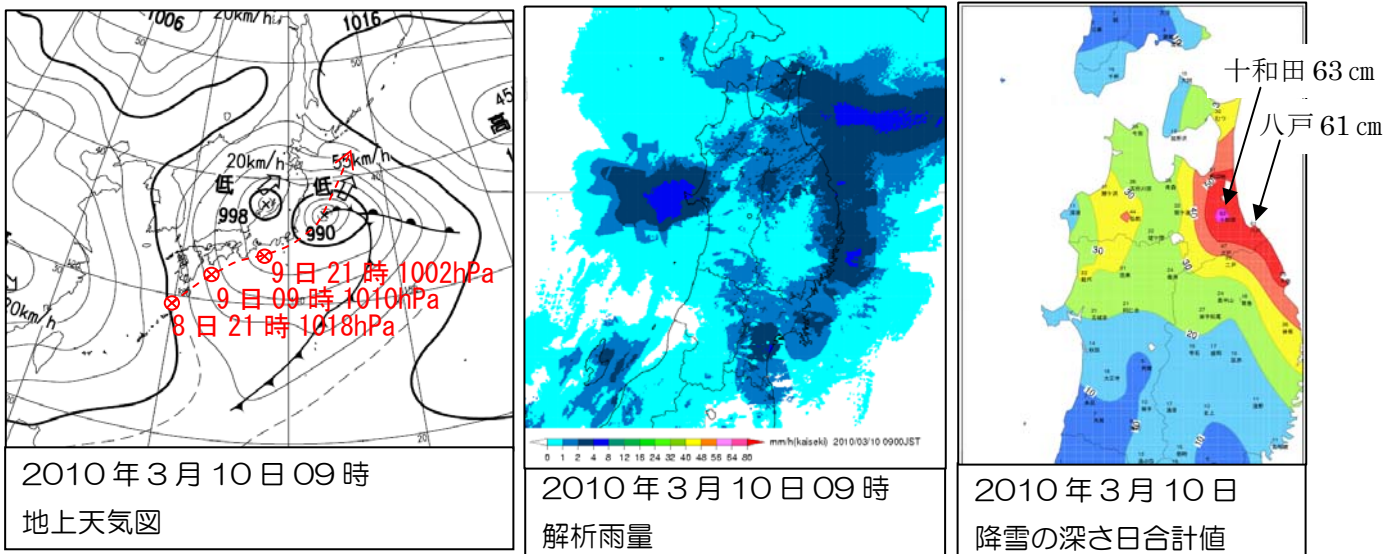
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
09時	-17.3℃	-23.5℃	-28.9℃	-31.9℃	-31.3℃	-27.8℃
21時	-17.1℃	-23.5℃	-29.0℃	-32.0℃	-31.3℃	-27.8℃

※平年値は1981年～2010年の500ヘクトパスカル(hPa)気圧面のデータを使用。

【南岸低気圧】

日本の南海上を主として東～北東に進んでいく低気圧のことを言います。冬の終わりから春の初めにかけて発生することが多く、東よりの風によって主に太平洋側で雪が降りやすくなります。普段、雪の少ない地方に長い時間広い範囲に湿った雪を降らせるため、雪による交通障害や着雪などの被害が発生しやすい特徴があります。

2010年3月10日の事例では、本州南岸を北東進した低気圧の影響で、太平洋側を中心に記録的な大雪となりました。降雪の深さ日合計値が十和田で63センチ、八戸で61センチを観測し3月として第1位の記録となりました。



【平地・山地・山沿い etc】

地域を表す用語として、平地や山地、山沿い等があります。

平地とは平野や大きな盆地など比較的起伏の少ない地域のことです。

山地とは山の多い所で起伏の多い地域のこと表します。また、平地から山地へと起伏がかわっていく地域を山沿いといい、この地域は人々が活動する地域となっており気象情報などでよく使われます。

この他に、山地の中でも高いところを山岳部、山地の中で人々が定住し活動の多い地域を山間部と表し、季節などによる人々の活動範囲に合わせて使い分けています。

ちなみに、青森大谷（青森空港）は山沿いの範囲になります。

## “統計に関すること”

### 【初氷】

「初氷」とは寒候期※に入って初めて氷がはることを言います。

青森の「初氷」の平年値※は11月3日です。

※平年値は1981年～2010年のデータを使用。

※「寒候期」は「冬によく使う用語（その1）」に掲載されています。

### 【初冠雪】

「冠雪」とは、山頂付近が雪などに覆われている状態を山麓などにある観測所（气象台や測候所など）から目視確認できたことを言い、秋から冬にかけて初めて「冠雪」となったときを「初冠雪」と言います。山頂付近で雪が降ったとしても、山頂付近が雲に隠れて、観測所から確認することができない場合は「初冠雪」とはなりません。

青森地方气象台では八甲田山と岩木山の「初冠雪」を観測しており、八甲田山の初冠雪の平年値※は10月17日、岩木山の初冠雪の平年値※は10月21日です。

※八甲田山の初冠雪の平年値は1981年～2010年のデータを使用。

※岩木山の初冠雪の平年値は1985年～2010年のデータを使用。



### 【雪日数】

雪やみぞれ、細氷などが観測された、いわゆる雪の降った日数のことを「雪日数」と言います。ただし、雪日数には雪あられ、氷あられ、ひょうなどは含まれません。

### 【初終間日数】

雪、霜、結氷などその季節に初めて観測した日を「初日」、最後に観測した日を「終日」といい、初日、終日をあわせて「初終日」と言います。また、初日と終日の間の日数を、「初終間日数」と言い、初日と終日を含めて求めます。

### 【根雪】

冬の期間中、積もった雪が、長期間消えずに残っている状態を「根雪」と言いますが、気象庁の統計では「積雪の長期継続期間」または「長期積雪（略称）」と呼んでいます。

## “冬に発表されることが多い警報・注意報”

警報とは、重大な災害が起こるおそれのあるときに警戒を呼び掛けて行う予報です。

注意報は、災害が起こるおそれのあるときに行う予報です。

### 【大雪警報・大雪注意報】

平地		山沿い
<b>大雪警報</b>	12時間降雪の深さ <b>35cm</b> 以上	津軽、下北、上北：12時間降雪の深さ <b>50cm</b> 以上 三八：12時間降雪の深さ <b>40cm</b> 以上
<b>大雪注意報</b>	12時間降雪の深さ <b>15cm</b> 以上	津軽、下北、上北：12時間降雪の深さ <b>25cm</b> 以上 三八：12時間降雪の深さ <b>20cm</b> 以上

### 【暴風雪警報・風雪注意報】

陸上		海上
<b>暴風雪警報</b>	雪を伴って平均風速 <b>18m/s</b> 以上	雪を伴って平均風速 <b>25m/s</b> 以上
<b>風雪注意報</b>	雪を伴って平均風速 <b>13m/s</b> 以上	雪を伴って平均風速 <b>18m/s</b> 以上

注) 八戸特別地域気象観測所では、**暴風雪警報**：20m/s 以上、**風雪注意報**：15m/s 以上をそれぞれ目安としています。

### 【なだれ注意報】

発表基準①	山沿いで予想される24時間降雪の深さが <b>40cm</b> 以上
発表基準②	積雪が <b>50cm</b> 以上で、日平均気温 <b>5度</b> 以上の日が <b>継続</b>

### 【低温注意報】

冬期の場合は、水道管の凍結・破裂による著しい被害が予想される場合に発表します。発表する条件は次のとおりです。

- 最低気温が氷点下8度以下（ただし前日の最高気温が氷点下3度以下、又は0度以下が2日以上継続する場合）。気温は青森、むつ、八戸、深浦の値を用いる。

### 【着雪注意報】

大雪注意報が発表されるような気象条件の中で、気温が氷点下2度より高い時に発表します。

湿った雪が、電線や通信線、樹木等にこびりつき、その重みで断線したり樹木が折れたりするなどの被害が予想される場合に発表します。



2016年1月22日  
青森地方気象台のソメイヨシノに着雪



このほかの天気予報等で用いる予報用語は気象庁ホームページに掲載しています。興味のある方は下記のアドレスからご覧になれますので、ぜひ一度ご覧になってみて下さい。

[https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/yougo\\_hp/mokuii.html](https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/yougo_hp/mokuii.html)

(編集 永井、木村)



国土交通省

国土交通省 気象庁 青森地方气象台  
〒030-0966 青森市花園一丁目17番19号  
電話017-741-7411



気象庁

気象庁ホームページ: <https://www.jma.go.jp>  
青森地方气象台ホームページ: <https://www.jma-net.go.jp/aomori/>